

1 単元名 世界の民話を読もう 「木かげにごろり」(東京書籍)

2 目標

- 世界の民話に興味をもち、進んで読もうとしたり、積極的に紹介したりしようとしている。
(関心・意欲・態度)
- 場面の移り変わりと人物の心情や行動をとらえ、民話のおもしろさを感じ取ることができる。
(読む能力)
- 紹介する民話のおもしろさが伝わるように、工夫して本の帯やポスターにまとめることができる。
(読む能力)
- 難解語句を調べるために辞書を利用することができる。
(言語事項)

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の「C読むこと」の内容ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むこと」エ「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」オ「文章を読んで感じたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」カ「目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと」と関連している。

教材文「木かげにごろり」は、朝鮮半島に伝わる民話で、お百姓たちが助け合い機転を利かして欲張りな地主を懲らしめるというものである。お百姓たちが地主から木かげを買い取ったことをきっかけに立場が逆転し、次第に意気消沈していく地主の様子が時間の経過とともに描かれていて、場面の移り変わりや人物の心情を読み取るのに適した内容である。また、地主とお百姓の間答や挿し絵に民話独特のおもしろさがある。

さらに、読み取ったことをもとにして昔から読み継がれ語り継がれてきた世界の民話を読み、紹介し合う活動をすることで、伝承文化のおもしろさやすばらしさを改めて感じる可以考虑。こうした学習により、読書の幅も広がり、読書活動への意欲を一層高めることにつながると考える。

(2) 児童の実態(*人)

児童は、4月に教材「すいせんのラップ」で音読に重点をおき、場面の様子を想像したり、言葉のリズムを楽しんだりしながら読む学習をした。7月には教材「ゆうすげ村の小さな旅館」を通して場面の移り変わりに注意してあらすじを読み取る学習をしている。不思議な世界を描いた作品で、大半の児童は話の大体や大きなしかけはとらえることができた。しかし、小さなしかけには気付くことができず、教師からの問いかけやヒントを基に読み進めた。以下は、2教材の評価テストにおける読む力の到達度である。

単元名	すいせんのラップ		ゆうすげ村の小さな旅館	
到達目標	場面の様子を想像しながら、人物の気持ちや行動を読みとる。		物語のあらすじを考えながら、人物の行動を読みとる。	
到達度	90%以上	*人	90%以上	*人
	60%~90%未満	*人	60%~90%未満	*人
	60%未満	*人	60%未満	*人

4月に比べて読む力は伸びている。しかし、教師主動で十分に学習した後の簡易テストであり、個人差も大きい。1学期の最後には、たまごの殻を割らずに、ゆでたまごと生たまごを見分ける方法を説明した文章を読み、違いをはっきりさせながら要点を読み取るまとめのテストを実施した。このテストの到達度は、90%以上が*人で60%未満が*人という結果であり、既習内容を活用して読み取っていく本当の意味での「読む力」がついているとは言えないことが分かる。

読書活動では、4月から9月までの読書冊数が50冊を超えた児童は*人である。読んでいる種類も、ミッケシリーズやゾロリシリーズなどが目立つ。日本や世界の民話は、「大きなかぶ」「かさこじぞう」を教科書で学習したり、読書集会で中国民話などを読み聞かせしてもらったりしているが積極的に読んでいる様子は見られない。

(3) 指導観

3年生も後半に入ったので、児童主体の学習を展開できるようにしたい。そして、課題である読みを深める手立てとして下記の4点を取り入れ、実践する。

1 物語文の読みを進めるための手引きの活用

1学期の反省をもとに手引きを作成・活用し、学習の進め方がとらえられるようにする。時や場所を表す言葉をキーワードにして話の展開を読んだり、登場人物の会話文から心情の変化や人物像をとらえたりすることで、話のおもしろさを理解できるようにする。学習の進め方が理解できれば主体的な読み取りができるようになる。と考える。

2 発展学習の位置付け

教科書で学習したことを他の物語文や説明文の読み取りに活用できるように、もうワンステップ取り入れる。教科書教材に似た教材を指導計画の中に位置付け、学習した読み取り力を別の教材でさらに深めることができるようにする。また、教科書教材と「比べる」学習を入れることで、確かな読む力をつけられるのではないかと考えた。

3 PISA型読解力に対応する授業展開の工夫

① 課題意識をもつ

知っている民話についてその面白さを話し合い、「木かげにごろり」はどうだろうかと、読みの意欲をもたせる。

② 情報の取り出し・解釈

「木かげにごろり」の内容を理解したり、登場人物の気持ちを想像したりする。

③ 熟考・評価

登場人物の人物像について考えたり、友達と話し合いをしたりして共通点や相違点を見つけていく。

④ 表現

他の民話作品を読み、面白さについて発表し合う。

この一連の学習を展開できるようにする。作品読みに終始するのではなく、自分なりの見方や考え方を広げられるようにしたい。

4 中央図書館との連携

本教材の最終目標は、読書への「誘い」なので、中央図書館の方を講師に迎えてブックトークを実施する。いろいろな国で昔から語り継がれた民話を紹介してもらい、共通するおもしろさを味わうことで読書への関心を高めたい。読書生活を豊かにすることは、言語力の育成につながる。と考える。

4 指導と評価の計画（15時間扱い）

次	時	学 習 活 動	評価規準（評価方法）	配慮を要する児童への支援
一	1	知っている民話や昔話について発表し合い、学習の見通しを立てる。	㊦ 知っている昔話や民話を発表し、進んで話し合いに参加しようとしている。 （発表、ノート）	1年生や2年生で学習した教材を提示したり、著名な昔話を紙芝居で見せたりして、興味がもてるようにする。
	2	「木かげにごろり」を読み、感想を話し合う。	㊦ 面白かったところや思ったことを見つけ、自分の考えをまとめたり発表したりしようとしている。（発表・ノート） ㊧ 難解語句調べに辞書を利用している。（観察・ノート）	短い感想文を書く時間をとり自分の考えがもてるようにする。また、グループで話し合う時間をとり、友達の考えを参考にできるようにする。
二	3	時や場所を表す言葉、人物の言動をもとにして場面の移り変わりを読み取る。	㊦ 地主とお百姓たちの関係をとらえ、お百姓がなぜ木かげを買い取ったのか、その後どんな出来事がおきたのかを読み取っている。 （発表・ワークシート）	木かげをお百姓が買い取ったわけについて、会話をキーワードにして考えるように助言する。
	4 5	人物の言動を表す言葉や様子に注意して、地主とお百姓達の心情をまとめる。	㊦ 会話や木かげの変化に着目して表にまとめ、お百姓が喜んだ理由を読み取っている。 （発表・ワークシート）	場面ごとに地主とお百姓の気持ちや心情線にする。その際、ペアで話し合いをしながら進めるようにする。
	6	「木かげにごろり」のあらすじや面白さについて友達と話し合い、本の帯を書く。	㊦ 話し合ったことをもとにして、あらすじや面白さを本の帯に書いている。 （本の帯）	様々な本の帯を紹介して、ポイントをとらえたり、書く際の参考にしたりできるようにする。
三	7 8	朝鮮民話「三年とうげ」と「うさぎのさいばん」を読み、あらすじをとらえる。	㊦ 二つの作品の登場人物やあらすじをとらえている。 （発表・ワークシート） ㊧ 難解語句調べに辞書を利用できる。（観察・ノート）	読み聞かせをして、あらすじがとらえやすいようにする。また、ワークシートをまとめるヒントカードを用意する。
	⑨ 本時	「三年とうげ」「うさぎのさいばん」の面白さや「木かげにごろり」との共通点を話し合う。	㊦ 面白かった点について自分の考えをもち、友達の考えとの共通点や相違点を見いだしている。 （ワークシート・発言）	グループでの話し合いの時間をとり、友達の考えを参考に自分の考えがもてるようにする。
四	10	ブックトークを行う。 （中央図書館と連携）	㊦ いろいろな国の民話や昔話に興味をもち、話を聞いている。 （観察・発言）	近くで様子を見守ったり声をかけたりして、学習に集中できるように促す。
	11	いろいろな国の昔話や民話を読む。	㊦ 世界のいろいろな国や地域の民話・昔話を読み、面白さを感じ取っている。 （観察・発言）	本を何冊か紹介して、一緒に読むようにする。場合によっては、読み聞かせをする。
	12 13	読んだ本の中から紹介したい本を選んでポスターを作る。	㊦ 話の面白さや心に残ったことが伝わるように、紹介文やあらすじの書き方を考えながらポスターを書いている。 （ワークシート、ポスター）	ポスターの例を参考にすることを助言する。また、ワークシートのまとめ方を支援し、ポスターにできるようにする。
	14 15	ポスターを紹介し合い、感想を話し合う。	㊦ 様々な民話や昔話に興味をもち、読もうとしている。 （発言・読むゾウカード）	発表が苦手な児童には、近くで見守り、安心して民話・昔話が紹介できるようにする。

5 本時の学習

(1) 目標

三つの民話を比べ、話の共通点やそれぞれの面白さを見つけることができる。

(2) 準備・資料

- ・国語辞典（個人）
- ・ワークシート
- ・クイズシート
- ・「木かげにごろり」の挿絵
- ・「三年とうげ」「うさぎのさいばん」の本
- ・登場人物カード
- ・実物投影機
- ・移動黒板

(3) 展開 <○は児童が安心して授業に参加できるための工夫、☆は評価>

時間	学習活動・内容	指導上の留意点・評価
5分	1 アニメーションゲームをする。(一斉)	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式で学習を始めることで、楽しい雰囲気「木かげにごろり」のあらすじを想起できるようにする。 ・「木かげにごろり」の挿し絵は、移動黒板に提示しておき、学習の基盤として考えられるようにしておく。 ・「三年とうげ」と「うさぎのさいばん」の本を提示して、課題への意欲を喚起する。 ・板書を二つに分けて、作品の比較を視覚的にもとらえやすいようにする。 ・双方の主な登場人物を挙げ、その人物像についても考えることで、あらすじ確認の助けとなるようにする。 ・登場人物の顔カードを張り付け、視覚的にもとらえられるようにする。 ・前時まで1000字程度にまとめたあらすじ文を発表し合う。 ・実物投影機を活用してまとめたものを映して互いの考えを聞き合う。 ・「三年とうげ」と「木かげにごろり」の共通点についてはピンクのカードに「うさぎのさいばん」と「木かげにごろり」の共通点は青のカードに記入し、どちらか一方を選択してよいことを話す。 ○自分の考えをまとめた後に、グループで話し合う時間をとり、自分の考えを見つめ直したり広げたりできるようにする。 ・グループでの話し合い後に全体で考えを発表する。 ○視点を提示して、共通点を探す手立てになるようにする。 ・自分の考えをまとめる時間をとってから、意見を交換する。 ・1作品を選んだ理由については、面白かったところや好きな登場人物、心に残った場面など、自由に書いてよいことを助言する。 ・作品を選んだ理由についても発表し合い、それぞれの考えには違いがあることにも気付かせたい。 ☆話の共通点や面白いところを見つけることができる。(発表、カード) ・図書館の方を招いてブックトークを行い、世界の民話を紹介してもらうことを話す。
3分	2 本時の学習課題を確認する。(一斉)	
10分	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">お話のにているところやおもしろいところを見つけよう。</p> <p>3 「さんねんとうげ」, 「うさぎのさいばん」の話の内容を確認する。(一斉)</p> <p>(1) 登場人物</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「三年とうげ」 おじいさん, おばあさん トルトリ, 村の人 ○「うさぎのさいばん」 とら, 旅人, 松の木 牛, うさぎ <p>(2) あらすじ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">.....が.....して.....した話</p> <p>(中心人物) (出来事・行動) (変化・結末)</p>	
25分	<p>4 「木かげにごろり」と比べ、考えを話し合う。</p> <p>(1) 「木かげにごろり」との共通点を考え、話し合う。(個別→グループ→全体)</p> <p><視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文や言葉 ・登場人物の行動や性格 ・あらすじ ・話の結末 <p>(2) 一番好きな作品を選んで発表する。(一斉)</p> <p><理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・面白かったところ ・好きな(印象的な)登場人物 ・心に残った場面 ・不思議だなと思ったところ 	
2分	<p>5 次時の課題を知る。(一斉)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">お話で世界旅行をしよう。</p>	